

【週刊タバコの正体】

Vol.51 第9話～第10話

2022年03月

和歌山工業高校 奥田恭久

■Vol. 51

(No. 699) 第9話 百害あって一利なし

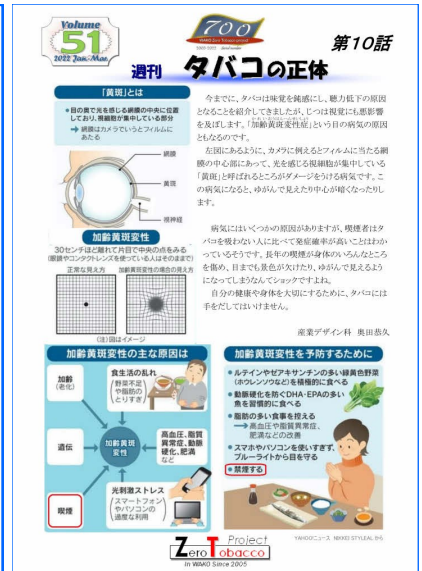
ータバコは味覚や嗅覚を鈍感にし聴力の低下を招く...

タバコは身体のだるさなどにも悪影響を与えます。これまで、その影響で発症するいろいろな病気を紹介してきたので、皆さんはよく知っていると思います。COPD、心筋梗塞、脳梗塞などはその代表ですが、じつは耳の機能もダメージを受け聴力が低下する事があるのです。

(No. 700) 第10話 目の病気

ータバコは人間のほとんどのセンサー機能にダメージを与える...

今までに、タバコは味覚を鈍感にし、聴力低下の原因 となることを紹介してきましたが、じつは視覚にも悪影響を及ぼします。「加齢 かれい 黄斑 おうはん 変性症 へんせいしょう」という目の病気の原因ともなるのです。左図にあるように、カメラに例えるとフィルムに当たる網膜の中心部にあつて、光を感じる視細胞が集中している「黄斑」と呼ばれるところがダメージをうける病気です。この病気になると、ゆがんで見えたり中心が暗くなったりします。



「週刊タバコの正体」700号発行

■700回(2022.03.15)

2005年4月にスタートした「週刊タバコの正体」が17年間で通算700号を迎えました。創刊した頃は、2002年に受動喫煙の防止が盛り込まれた健康増進法が制定され、全国に先駆けて和歌山県で公立学校敷地内全面禁煙が始まり、2005年2月にはWHOの「たばこ規制に関する世界保健機関枠組み条約(FCTC)」が発効した時代でした。振り返れば、この約20年はタバコ規制対策が大きく前進した期間だったと思います。そんな時代の波に乗せてもらった結果が700号につながったのだと感じています。

現在の高校生はこの期間に生まれ成長した子供たちなので、タバコに関する正しい知識や認識を持っている若者が多くいるはずで、タバコの正体もそんな若者を世間に輩出する事に貢献できたのではないかと思いますと同時に、高校生の喫煙が激減した現状では、その役割も終わりつつあるようにも思っています。

一方、タバコ規制対策は前進したとは言えタバコの被害はまだ大きく、その対策に奔走している人たちも多くいらっしゃいます。HPを通じて毎週読んで頂いているそんな皆様には、大きな励みももらっています。ありがとうございます。

次世代のタバコ対策に向けて、今後も可能な限りタバコの正体を続けていきたいと思っています。(奥田恭久)

■祝・週刊タバコの正体700号

奥田先生、700号おめでとうございます。

500号のお祝いを書いたのが、遠い昔に思えます。というのも、501号の題が「おもてなし」で、東京オリンピック誘致の際の「おもてなし」は受動喫煙をなくし、きれいな空気と外国人をもてなそうと書かれていたからです。コロナの影響で、開催は1年延期され、選手たちはバブルと呼ばれる隔離された環境置かれたわけですが、健康増進法の改正により受動喫煙環境はそれなりに改善されました。

タバコの害を知らしめ、タバコを吸わない事のすばらしさを発信しつづけてられています。こうした活動が吸わない高校生を生み出すことで、タバコのいない世界を作っていきます。

教育・小児科分科会も、喫煙防止教育、受動喫煙の見える化で、先生に負けないように努力していきます。(日本禁煙科学会 教育・小児科分科会 野田 隆・牟田 広実)

毎週火曜日発行



URL: https://www.jascs.jp/truth_of_tobacco/truth_of_tobacco_index.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。
※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。

